

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No105～

令和5年（2023年）

8・9月
合併号

（編集長・渡邊啓子）

目次

- ◇ご挨拶（会長・大平恵理）・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ◇全国書写書道コンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ◇書検について・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- ◇中国展に協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- ◇北山幼稚園夏の展示会開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

一般社団法人日本書字文化協会（書文協）

本部 〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6 丸由ビル3階

電話03-6304-8212 / FAX03-6304-8213

メール info@syobunkyo.org

ホームページ <https://www.syobunkyo.org>

ご挨拶

大平 恵理（書文協代表理事・会長）

実りある秋に



猛暑続きの夏もあと少し、秋の到来が待ち遠しい日々となりました。まだ元通りとはなりません、皆様、今年の夏休みはだいぶ解放感をもって過ごされたのではないのでしょうか。

書文協では、まだご案内を限定した形ではありましたが、附属の書写書道専修学院生を対象に夏期特別講習会を行いました。

代々木オリンピックセンター宿泊施設を利用した1泊2日の合宿コースも設け、初日の練習を終えた後は参加者同士の自己紹介を行うなど、書写書道を通じて仲間と学び合う豊かな体験をしていただけたのではないかと考えております。来年はご案内を広げて参加を募れたらと考えております。

2023年度は『書検(全日本書字検定試験)』がスタートしましたが、前号でもお知らせしましたが、本号では第1回後期『書検』実施要項を発表いたします。前期日程では約100の方が受験しました。書写書道は実技が中心となる学びになっていますが、筆記では言葉で学び、実技の過程を整理しはつきりと確認する試験になったと思います。そのため3級からの実技試験では、1つの級に硬筆と毛筆の両方の力が試されます。筆記の学びが、硬筆と毛筆を関連付けて理解することを深めるように考えられています。

『書検』のねらいは、「字を書くことが楽しい、分かる、また書こう」という、「一人ひとりが自分の字を自信をもって書くこと」を推し進めていくことに着眼したものです。書写書道が難しい、上手く書けないと敬遠する学びでなく、常に傍らにおいて学んで欲しいという願いが込められた検定試験です。段級表を見て、やってみよう、という段級を選んでぜひチャレンジしてみてください。

9月は第12回総合大会が締め切られ、第12回伝統大会のご案内も始まります。コンクールは競い合いの中で実力をグングン伸ばしていく機会です。たくさんのご応募をお待ちしております。『書検』も含め全国コンクール参加記録は、きちんと整理された成績証書として発行（有料）もされます。受験や就職試験でもご活用ください。



全国書写書道コンクール 3 大会を開催

書文協は毎年、3 つの全国大会を開催しています。夏休みを経て秋の初めに締め切られる総合大会、冬休み明けに、正月習俗にちなんで行う伝統文化大会そして年度初めの大会として行われる臨書展です。コンクールは賞取り合戦でなく、書写書道の学びがどこまで身に付いたかを調べるものです。鍛錬の戒め、励み、学びの軌跡保存にご利用ください。総合、伝統文化の両大会は文部科学省、臨書展は外務省など公的な団体の後援を受ける権威ある大会です。皆様の奮っての応募をお待ちします。



総合大会の締め切り迫る

3 つのコンクールで構成されています。小学校 3 年生以下が競う「ひらがな・かきかたコンクール」「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」です。ひらかきコンは一足早く 7 月 20 日に締め切られました。残る 2 コンクールは 9 月 20 日必着です。書写書道展には公募と席書の両部があり、各地で席書大会も開催されています。コンクール出品の詳細でご不明な点は、書文協にご連絡下さい。

伝統文化大会の指定課題は 9 月中旬発表

日本古来のお正月の習俗である年賀状と書き初めにちなむ大会で「全国年賀はがきコンクール」と「学生書き初め展覧会」があります。指定課題は 9 月中旬に発表予定です。実施要項も後援など予定の段階ですが、同時に公表致します。

第 9 回臨書展は 2024 年 4 月に

古典を模写する臨書は書道を学ぶ上で大事なこととされ、高校のカリキュラムで取り上げられています。書文協では小中学生でも取り組めるように工夫を凝らし、年度初めの大会としています。実施要項は本年末に発表予定です。

いずれも学校・地教委等に顕彰依頼

どの大会も、優秀作品については在籍の園・学校に褒めていただけるように顕彰の依頼状を発行しています。大会は賞取り合戦でないが、その努力は多くの人に褒めて欲しい、との考えから実施しており、学校などから歓迎されています。一般の出品者も、表彰規定のある自治体・教委には顕彰依頼状を送っています。

第1回書検の後期を11月に実施

<受付>

開始 9月20日

終了 10月20日

下記の申し込み用紙にて申し込んでください。

<実施段級>

8級から2段の10ランク（実施要項参照）

□受験者名簿添付の事。受験料（特別価格1人500円）払い込みの事。第1回はトライアルでもあり、特別価格とします。第2回以降の料金は実施要項でお確かめください。

<テスト実施期間>

11月16日（木）～30日（木）の15日間のうちから1日選ぶ。

<送付・返却>

□「筆記に出る観点語句の一覧表」を申し込み後に発送

□テスト問題・解答用紙を、実施日の1週間前に発送終了

□実施後1週間以内に、上記のテスト問題・解答用紙を返却送付終了のこと。

<テスト結果送付>

□1月15日までに、合否結果を送付終了

<守秘義務>

実施要項にありますように、受験団体及び受験生は、テスト内容について口外しないようお願い致します。

書検（全日本書字検定試験）実施要項

1. 目的

書検は、字の上手さを審査するのではなく、学習指導要領に定められた書写書道の基本が何処まで身に付いているかを学年段階ごとに調べる全国で初めてのテストです。書写書道の学びを深め、書道を生涯学習にするために行われもので、硬筆・毛筆を併せて評価するのも全国初です。「書検」の言葉は商標登録されており、加藤東陽書文協中央審査委員長の指導、文字・活字文化推進機構の後援で進めます。

園児、小学校から高校、大学・一般まで16段階でテストします。文部科学省学習指導要領・幼稚園教育要領に準拠するとともに、社会教育の現場における様々な書風を越えて共通に持つべき能力を検定するものです。

2. 実施機関

主催：一般社団法人日本書字文化協会

後援：公益財団法人日本文字・活字文化推進機構

設問作成・合否審査：専門委員会

3. 実施期日

年2回、前期5月1～15日 後期11月1～15日

4. 実施会場

認定した園・学校・書塾、公共機関。

5. 検定料

段級ごとに設定し発表

6. 練習テキスト

書文協から試験対策資料（筆記に出る観点語句一覧）、審査講評などを配布。練習テキストの刊行も検討する。

7. 試験内容

- ・受験資格 年少～一般
- ・検定レベル 園児から小学6学年、中学3学年、高校3学年、大学・一般までの16段階の学年相当で行い、合否判定する。
- ・硬筆・毛筆同時に行い（4級までは硬筆のみ）、書写書道の基礎知識・実技を含む。
- ・受験方法 順を追うことなく、相当学年を自由に選んで受験することができる。合格した場合は、それより前の段階もクリアしているものとする。

今回行う段級表は以下の通り。

段級表

段級	内容相当学年	受験相当学年	段級	内容相当学年	受験相当学年
8級	年少	年少・年中	3級	小3	小4
7級	年中	年長	2級	小4	小5
6級	年長	小1	1級	小5	小6
5級	小1	小2	初段	小6	中1
4級	小2	小3	2段	中1	中2

8. 段級の付与

- ・段級証明証発行、段級入りメダルバッジ付与(有料)。

9. 「筆記に出る観点語句一覧表」の発行

テストを受けることで覚える、ことが大きな目標です。このため、筆記テストについては、テストで出題される項目全体を事前公開します。それをまとめた冊子を「筆記に出る観点語句一覧表」(旧・筆記の設問一覧)と呼びます。内容の公開は、送付した人限りとし、外部には漏らさないようにお願いします。以下、使い方を説明します。

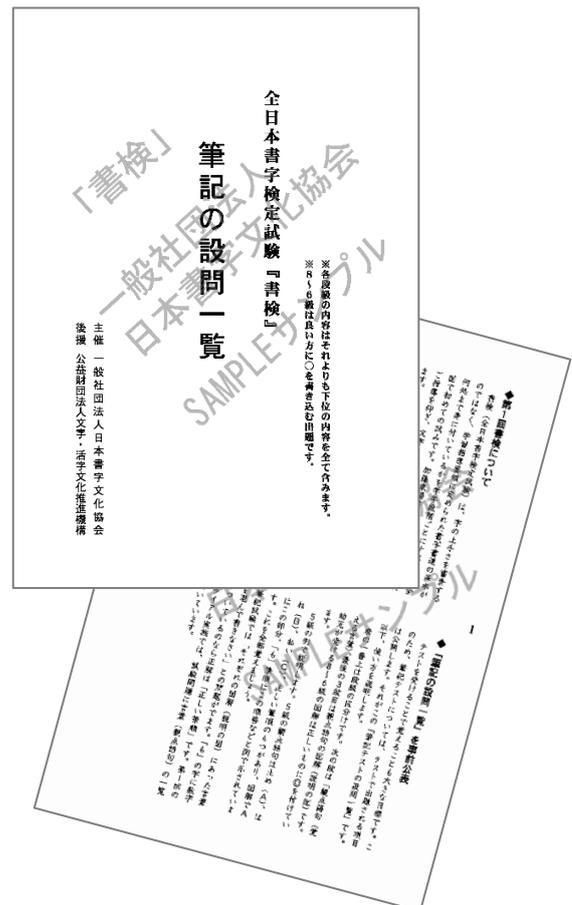
＜一覧の見方＞

表の一番上は段級の区分けです。次の段は「観点語句(覚える言葉)、最後の3段目は観点語句の図解(説明の図)です。年少～小1が受ける8-6級の図解は正しいものに◎を付けています。

5級の例で説明します。

5級の観点語句は姿勢(しせい)、えんぴつの持(も)ち方(かた)、えんぴつの先(さき)の向(む)き、止め(A)、はね(B)、払い(C)、正しい筆順(かきじゅん)の7つがあり、図解でAはこの部分、「も」の筆順はこの順番などと図で示されています。これを全部覚えましょう。

6級	7級	8級	段級
先 の 向 き	えん ぴ つ の 持 ち 方	姿 勢	観点語句 (覚える言葉)
			図解 (説明の図)
4級	5級		
(一) 同じ長さ (二) 短い (三) 長い	正しい書き順 正しい筆順	(一) 払い (二) はね	(一) 止め



10. 守秘義務 受験団体、受験生は試験内容を口外しない義務を負います。

11. 商標登録 「書検」の名称は商標登録済みです。

全日本書字検定試験『書検』

団体用

受験申込書

申込日 年 月 日

団体番号(登録済であれば)

団体名 ふりがな

責任者 ふりがな

所在 〒

電話番号 携帯電話番号

FAX 番号 E-mail

試験会場名

試験実施予定日 年 月 日 ()

受験予定人数 8級 人、 7級 人、 6級 人、 5級 人

※受験予定段級は全て
ご記入ください。

4級 人、 3級 人、 2級 人、 1級 人

初段 人、 2段 人、 3段 人、 4段 人

5段 人、 6段 人、 7段 人、 8段 人

<実技試験にあたり>

□硬筆

仕上げには、硬筆共通清書用紙(書文協製)を使用します。
段級により種類があります。お手元がない方は日本書字文化協会事務局
までお問い合わせください。

□毛筆

用紙は自由です。段級に合わせて指定サイズをご確認の上、お手元にあ
るものをご使用ください。

全日本書字検定試験『書検』

個人用

受験申込書

申込日 年 月 日

団体番号(登録済であれば) 団体名

受験者 ふりがな

生年月日 西暦 年(昭和・平成・令和) 月 日

学校名 学年

所在 〒

電話番号 携帯電話番号

FAX 番号 E-mail

試験会場名

試験受験日 年 月 日 ()

受験段級	8級 ()	7級 ()	6級 ()	5級 ()
※受験段級の右()に ○をつけてください。 → (○)	4級 ()	3級 ()	2級 ()	1級 ()
	初段 ()	2段 ()	3段 ()	4段 ()
	5段 ()	6段 ()	7段 ()	8段 ()

<実技試験にあたり>

硬筆

仕上げには、硬筆共通清書用紙(書文協製)を使用します。

段級により種類があります。お手元にない方は日本書字文化協会事務局までお問い合わせください。

毛筆

用紙は自由です。段級に合わせて指定サイズをご確認の上、お手元にあるものをご使用ください。

書の国際展に協力

世界の書のオリンピック的な催しにしたい、と中国の有力団体が国際書道展を開催することになった。名称は「第1回青少年世界和平書法大会」。今年12月末に上海で予定されている。開催団体から書文協に日本を代表しての参加要請があり、書を通じての民間交流を重視する書文協としてはこの大会にできる限り協力することとした。

日本国内の各書写書道団体から集めた硬筆・毛筆合計約10,000点を展示のため出品する。この内、幼稚園児らの作品を含む約196点は、優秀作品として出品。これら優秀作品は事前に日本でも展示される。

参加者には、出品者全員に参加シールが贈られ、事前に中国との子ども達との日本での交流会も企画されている。

現在予定されている同展の概要は以下の通り。

主催	(中国) 国際芸術家連盟、人民中国、中国社会教育協会 (日本) 一般社団法人日本書字文化協会
後援	中国書法家協会
会場	上海
会期	2023年12月26日(火)～12月29日(金)
テープカット	2023年12月27日(水)
観覧	希望者は訪中(有料)
賞状・シール	出品者全員に出品記念シール、入賞者に賞状、図録(有料)
出品料(中国)	2,000円～3,000円(日本は今回無料)

東京都美術館で優秀作品事前展示

9月27日(水)から10月5日(木)まで、東京・上野の都美術館で開かれる「第56回国際書法芸術展」(主催:国際書法芸術協会、中国書法学院)の中で、青少年世界和平書法大会の優秀作品約360点が展示されることになった。この中には、書文協から出品された196点も含まれる。

この展示会に関連し、優秀作品の授賞式が10月4日(水)、プリンスホテルで駐日中国大使も出席し、行われる予定。これに先立ち、10月1日(日)10時～、国際書法展の会場で揮毫(席書)交流会が行われる。毛筆は床書き、硬筆は机で行われる。揮毫交流会に参加希望の方は、書文協までご連絡ください。

北山幼稚園 展示会

東京都府中市西原町の学校法人山縣学園・北山幼稚園（山縣迪子園長）で8月17日から20日まで秋の展示会が開かれました。書文協は2015年から、同幼稚園の依頼により、社会的試行として園児の毛筆正課授業を展開しています。その園児たちが書いた作品105点が、1階で展示され（写真）、保護者らが感心した表情で子ども達の力作を眺めていました。

この正課授業には池田圭子・書文協教学参与を派遣し、年中児の秋から開始しています。飾られたのは年長児になった園児たちの作品。授業は月2コマ（1コマ60分）開かれます。約105人の同学年園児を6グループに分け、約20分ずつ、園児たちが授業を受ける仕組み。同園は、イタリアの自由・自主のモンテッソーリ教育を掲げ、壁なし空間の中で、クラス構成を自由に構成できます。この環境に助けられました。



作品は、しろ、とし、いし、の3つの言葉の中から書いています。水をつけた筆で特殊マットに書く水書練習から墨で書くまで、園児たちは集中して取り組みました（写真は正課授業の様子）。言葉は、「し」のつく言葉を園児たちに考えてもらったもので、全員がその言葉の意味を理解するまで時間がかかる、という幼稚園らしい言葉学習にもなりました。

毛筆は小学校3年生からの学びですが、小学校学習指導要領の改定に伴い、2020年より小学校1・2学年の書写の授業に「水書用筆等を使用した運筆指導」が取り入れられました。また、幼稚園教育要領でも「小学校教育との留意事項」（第3章教育課程の役割と編成等の5）に“幼小連携”の大事さを書いています。書文協のこの社会的試行は、文部科学省の教科調査官経験者らと協議の上始めたものですが、将来の指導要領を考える際の材料になればと期待しています。

